



2030年問題は加速して、近づいてきた？

校長 松田 隆幸

昨年度の出生数は86万人を割り込んでします。この数字は一体いつの出生数と同じでしょうか？ 明治時代で言うと8年。明治8年が87万人を割り込んでいる様です（*内閣府HPより）。昭和40年代でも、地蔵橋から、網代橋まで、民家は何件あったのか？現在の半分以下どころではなかったと記憶しています（*生まれも育ちも根岸の私の記憶から）。これが、2030年問題の元。人口が激減。労働人口が絶対的に不足する。国外からの労働力を織り込んで考えないと仕事が回らなくなる時代。そして、society 5.0（超スマート社会）の社会の到来。私も最初は「なんだそれ？」と言う印象でしたが、調べてみると、それはもう始まっているようです。ちなみに、society 1.0~4.0は狩猟社会→農耕社会→工業社会→情報社会となっています。既に、5.0社会はコロナ禍にあって、学校でも、GIGAスクールが前倒しされたこともあり、これが、Society 5.0がスタートしたことの一例ではないでしょうか。

今ある仕事の半数が無くなるとも言われる時代。持続可能な開発目標のSDGsを念頭に、IoT、ビッグデータ、AIの発展、5G→6G、ロボット工学の発展等々ありとあらゆるものが劇的に変化していく時代。学校も変わらざるを得ない状況です。現在の中学生が世の中に出て、仕事に就くまで、あと何年でしょう？ その時の世の中、世間様はどうなっているだろうか？ 「進路は、子供の好きなように選ばせる……」基本的にはその通りですが、我が子の進路は、後々の親の面倒を見る我が子の将来に少なからず影響することから進路の見極めは、これまで以上に複雑化していると言えそうです。進路選択はいつの時代も容易ではないけれども、今の中学生のそれは、これまでと比べてもより複雑化、多様化することが予想されると思います。

よりよく解決していくための取り組みのヒントは、岸川中の「ライバル」（敢えてライバルと申します）の川口市立高校附属中学校にヒントがあると思っています。STEM教育、LIBERAL ARTS、毎日45分の7時間授業で、数学などは、2年間で3年生までの学びを完了するといこと。ライバルは世界で活躍する人材の育成を掲げていますが、ウチもできることに挑戦して行かなくてはならないと考えています。世界に通じる人材育成の学校では、英語での会話力は当然となっていくことでしょう。英語では、5ラウンドシステムの指導でリードしたいところです。

文部科学省は、「令和の日本型学校教育」の構築を打ち出しています（*後々この紙面で触れていきます）。今年度から、新しい学習指導要領（*授業をする上でのルールのようなもの）の全面実施がスタートし、評価・評定も変わります。新しい枠組みの教育改革が本格化します。この波に乗り遅れることの無いように、我々も研修を積み上げ、保護者、地域の皆様のご期待に添えるよう努力して参ります。まずは、私が一番勉強しなければ……。